



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年7月31日

上場会社名 エバラ食品工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2819 URL https://www.ebarafoods.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮崎 遵
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 半田 正之 TEL 045-226-0107
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	12,138	△1.8	455	△2.5	475	△7.8	305	△6.7
2019年3月期第1四半期	12,354	1.1	467	41.0	515	38.4	327	42.7

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 287百万円 (△16.3%) 2019年3月期第1四半期 343百万円 (48.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	29.32	—
2019年3月期第1四半期	31.42	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	37,885	24,702	65.2	2,372.24
2019年3月期	38,149	24,624	64.5	2,364.71

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 24,702百万円 2019年3月期 24,624百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	15.00	—	20.00	35.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	18.00	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	26,431	2.6	1,355	17.7	1,407	14.7	911	13.1	87.52
通期	52,484	2.3	2,270	△5.1	2,360	△5.1	1,530	△7.2	147.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期1Q	10,468,710株	2019年3月期	10,468,710株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	55,451株	2019年3月期	55,451株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期1Q	10,413,259株	2019年3月期1Q	10,408,710株

(注) 当第1四半期連結累計期間の期末自己株式数及び期中平均株式数の算定にあたり控除する自己株式数には、「従業員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社 (信託E口) (再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)) が保有する当社株式30,000株 (前第1四半期連結累計期間30,000株) 及び「役員向け株式交付信託」の信託財産として三井住友信託銀行株式会社 (信託口) (再信託受託者：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)) が保有する当社株式25,449株 (前第1四半期連結累計期間30,000株) を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料P.4

「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年6月30日)におけるわが国経済は、全体として緩やかな回復基調にあるものの、消費者マインドは弱含みで推移しており、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社グループは、国内市場における超高齢化、世帯人数の減少、共働き世帯の増加、人口減、社会の成熟化に伴うニーズの多様化に加え、デジタルテクノロジーの進展、ミレニアル世代等の新たな消費者層の拡大、アジアの成長や経済のグローバル化等、国内外の事業環境が大きく複雑に変化するなか、新価値創造による強い企業成長を目指すため2019年度から2023年度までの5ヵ年の中期経営計画「Unique 2023 ～エバラらしさの追究～」を策定しました。基本とする戦略方針を「コア事業による収益強化と戦略事業の基盤確立」「“エバラらしく&面白い”ブランドへの成長」と定め、企業成長に向けたチャレンジを継続し、エバラの独自性、面白さに磨きをかけて、当社グループの根幹を支えるコア事業の収益拡大を図ってまいります。また、将来の成長ドライバーとなる戦略事業を推進し、国内外で新たな需要、市場を開拓することで、事業規模の拡大とエバラブランドの浸透を図ってまいります。「Unique 2023」の第1フェーズ(2019～20年度)におきましては、事業基盤の整備強化やコミュニケーションの進化を通じた多様な価値創造を推進し、『黄金の味』の売上伸長、ポーション調味料の市場拡大、業務用事業の収益力強化及び戦略事業の基盤確立に向けた取り組みの強化を進めてまいります。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、121億38百万円(前年同期比1.8%減)となりました。販売競争が過熱するなか、価値提案型の施策を通じた店頭露出の向上に努めたものの、『黄金の味』が前年同期の水準に届かなかつたほか、『浅漬けの素』が6月の度重なる天候不順の影響を受け、売上が伸び悩んだことが要因として挙げられます。一方で、鍋物調味料群が『プチッと鍋』の店舗導入率の向上等により売上を伸ばしたほか、リニューアルを行った『プチッとうどん』や既存顧客の取引を拡大した物流事業は前年同期を上回る水準で推移しております。利益面につきましては、売上高の減少により、営業利益は4億55百万円(前年同期比2.5%減)、経常利益は4億75百万円(前年同期比7.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億5百万円(前年同期比6.7%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<食品事業>

家庭用商品は前年同期売上高を下回りました。肉まわり調味料群につきましては、新商品である『極旨焼肉のたれ』や、品質やパッケージデザイン等をリニューアルした『ステーキ御膳』が売上を伸ばした一方、『黄金の味』や『おろしのたれ』が前年同期の水準に届かず、前年同期実績を下回りました。鍋物調味料群につきましては、『プチッと鍋』が伸長したほか、4月に気温が低く推移したこと等により『すき焼のたれ』や『キムチ鍋の素』も売上を伸ばし、前年同期実績を上回りました。野菜まわり調味料群につきましては、6月の天候不順の影響等を受け『浅漬けの素』の売上が伸び悩んだことにより、前年同期実績を下回りました。その他群につきましては、シリーズを一新した『プチッとうどん』が引き続き好調に推移したものの、チルド商品の売上が低調に推移した影響により、前年同期実績を下回りました。

業務用商品は前年同期売上高を下回りました。肉まわり調味料群が特注品や新商品である『彩り梅だれ』の貢献等により前年同期を上回ったものの、スープ群が荏原食品(上海)有限公司における特注品減少の影響を受けたほか、その他群も前年同期に届かず、前年同期実績を下回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は102億25百万円(前年同期比2.4%減)となりました。

<物流事業>

既存顧客の保管及び輸送需要の取り込みにより継続的に取引が伸長し、取扱量が増加した結果、物流事業の売上高は14億86百万円(前年同期比6.2%増)となりました。

<その他事業>

広告宣伝事業において、企画提案等により既存顧客との取引拡大や新規顧客開拓に努めたものの、前年同期のスポット受注のカバーには至らず、その他事業の売上高は4億26百万円(前年同期比9.9%減)となりました。

売上高の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

事業名称及び商品群名	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	対前期比 (%)
食品事業	10,482	10,225	△2.4
家庭用商品	8,227	7,974	△3.1
肉まわり調味料群	4,540	4,371	△3.7
鍋物調味料群	1,160	1,234	6.4
野菜まわり調味料群	1,700	1,544	△9.2
その他群	826	823	△0.3
業務用商品	2,254	2,251	△0.2
肉まわり調味料群	748	751	0.4
スープ群	814	809	△0.6
その他群	691	689	△0.2
物流事業	1,399	1,486	6.2
その他事業 (広告宣伝事業、人材派遣事業等)	472	426	△9.9

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産額につきましては、前連結会計年度末に比べ2億64百万円減少(前期比0.7%減)し、378億85百万円となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金の減少等により、前連結会計年度末に比べ1億3百万円減少(前期比0.4%減)し、244億54百万円となりました。

固定資産につきましては、有形固定資産が1億37百万円減少(前期比1.5%減)し、無形固定資産は16百万円減少(前期比4.7%減)しました。また、投資有価証券の減少等により、投資その他の資産が5百万円減少(前期比0.1%減)したことで、固定資産は1億60百万円減少(前期比1.2%減)して、134億31百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の負債合計額につきましては、前連結会計年度末に比べ3億42百万円減少(前期比2.5%減)し、131億82百万円となりました。

流動負債につきましては、未払金の減少等により、前連結会計年度末に比べ4億円減少(前期比4.3%減)し、88億55百万円となりました。

固定負債につきましては、退職給付に係る負債の増加等により、前連結会計年度末に比べ58百万円増加(前期比1.4%増)し、43億27百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末の純資産額につきましては、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ78百万円増加(前期比0.3%増)して247億2百万円となりました。当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は65.2%(前期は64.5%)、1株当たり純資産額は2,372円24銭(前期は2,364円71銭)となりました。

当社グループの資金需要につきましては、今後予想される様々な経営環境の変化に対応し、さらなる発展と飛躍を目的として、事業分野の拡大や研究及び開発体制の強化、生産設備の拡充等に、資金を活用していきたいと考えております。資金調達につきましては、グループ内の資金の一元化と低コストかつ安定的な資金確保の観点から、グループファイナンスシステムを導入しております。これは、グループ内における必要な運転資金や設備資金については、当社にて調達し、機動的かつ効率的にグループ内で配分することにより、金融費用の極小化を図っており、必要な資金は主に営業活動によって得られるキャッシュ・フロー及び金融機関からの借り入れ等によって調達しています。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ15億4百万円減少し、100億89百万円となりました。

当第1四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、12億12百万円（前年同四半期は2億60百万円の獲得）となりました。これは主に、売上債権の増加による使用12億10百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、2億10百万円（前年同四半期は1億48百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1億55百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、80百万円（前年同四半期は29百万円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額2億5百万円等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月15日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,165	10,666
受取手形及び売掛金	9,531	10,740
商品及び製品	1,535	1,610
原材料及び貯蔵品	603	629
その他	723	809
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	24,557	24,454
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,993	2,993
その他(純額)	6,079	5,942
有形固定資産合計	9,073	8,935
無形固定資産		
	358	341
投資その他の資産		
投資有価証券	1,932	1,905
長期貸付金	193	192
繰延税金資産	1,450	1,453
その他	607	626
貸倒引当金	△23	△23
投資その他の資産合計	4,159	4,153
固定資産合計	13,591	13,431
資産合計	38,149	37,885

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,143	5,407
短期借入金	83	208
未払金	1,846	1,314
未払法人税等	581	178
賞与引当金	327	653
株式給付引当金	58	58
役員株式給付引当金	17	21
販売促進引当金	510	414
その他	687	599
流動負債合計	9,256	8,855
固定負債		
退職給付に係る負債	3,874	3,932
資産除去債務	212	213
その他	182	181
固定負債合計	4,269	4,327
負債合計	13,525	13,182
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,387	1,387
資本剰余金	1,655	1,655
利益剰余金	21,428	21,524
自己株式	△112	△112
株主資本合計	24,358	24,454
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	373	353
為替換算調整勘定	140	136
退職給付に係る調整累計額	△248	△241
その他の包括利益累計額合計	265	248
純資産合計	24,624	24,702
負債純資産合計	38,149	37,885

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	12,354	12,138
売上原価	6,584	6,503
売上総利益	5,770	5,634
販売費及び一般管理費	5,302	5,179
営業利益	467	455
営業外収益		
受取利息	2	3
受取配当金	16	17
受取賃貸料	1	2
売電収入	14	15
持分法による投資利益	2	3
その他	21	4
営業外収益合計	59	46
営業外費用		
支払利息	2	2
賃貸収入原価	0	1
売電費用	6	6
為替差損	—	15
その他	1	0
営業外費用合計	11	26
経常利益	515	475
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	515	475
法人税等	188	170
四半期純利益	327	305
親会社株主に帰属する四半期純利益	327	305

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	327	305
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24	△20
為替換算調整勘定	△15	△4
退職給付に係る調整額	7	6
その他の包括利益合計	16	△17
四半期包括利益	343	287
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	343	287
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	515	475
減価償却費	281	250
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
固定資産除却損	0	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	305	325
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	1	—
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	4	3
販売促進引当金の増減額 (△は減少)	△12	△95
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	35	68
受取利息及び受取配当金	△19	△20
支払利息	2	2
持分法による投資損益 (△は益)	△2	△3
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,485	△1,210
たな卸資産の増減額 (△は増加)	8	△101
仕入債務の増減額 (△は減少)	734	264
未払消費税等の増減額 (△は減少)	165	△181
未払金の増減額 (△は減少)	△192	△438
その他	159	△27
小計	501	△690
利息及び配当金の受取額	19	20
利息の支払額	△2	△2
法人税等の支払額	△258	△539
営業活動によるキャッシュ・フロー	260	△1,212
投資活動によるキャッシュ・フロー		
貸付金の回収による収入	0	0
貸付けによる支出	△0	—
定期預金の預入による支出	△6	△6
投資有価証券の取得による支出	△2	△3
有形固定資産の売却による収入	0	—
有形固定資産の取得による支出	△52	△155
無形固定資産の取得による支出	△57	△26
その他	△30	△20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△148	△210
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	125	125
配当金の支払額	△154	△205
財務活動によるキャッシュ・フロー	△29	△80
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	83	△1,504
現金及び現金同等物の期首残高	8,610	11,594
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,694	10,089

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食品事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	10,482	1,399	11,882	472	12,354
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	10,482	1,399	11,882	472	12,354
セグメント利益	551	31	583	9	592

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、人材派遣事業等を集約しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	583
「その他」の区分の利益	9
全社費用(注)	△125
四半期連結損益計算書の営業利益	467

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	食品事業	物流事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	10,225	1,486	11,712	426	12,138
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	10,225	1,486	11,712	426	12,138
セグメント利益	549	5	555	15	570

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告宣伝事業、人材派遣事業等を集約しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	555
「その他」の区分の利益	15
全社費用(注)	△114
四半期連結損益計算書の営業利益	455

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。